

IPM実践指標モデル (いちご)

分類	管理項目	管理のポイント	点数	チェック欄		
				昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況
予防	病害虫・雑草の発生しにくい環境の整備	ほ場内、周辺の除草 (必)	病害虫の発生源となるほ場内やほ場周辺の雑草を除去する。	1		
		健全苗の定植 (必)	定植苗は病害虫の発生加害のない健全な苗を使用する。	1		
		親株の更新は毎年行う。	1			
		施肥管理	土壌診断を行い、適切な施肥を行う。	1		
		排水対策	排水が悪いほ場は暗きよ、明きよの整備や高敷にするなど排水対策を行なう。	1		
		資材の消毒	前年に使用した資材は使用前に消毒する。	1		
判断	タイミングの判断	病害虫発生予察情報の確認 (必)	病害虫防除所が発表する発生予察情報を入力し確認する。	1		
		気象情報の把握	気象情報を把握し、防除の要否を判断する。また、適期防除に心掛ける。	1		
		病害虫の観察	ほ場には必ずルーペを持参し、病害虫や天敵の発生状況を確認し、防除に活かす。	1		
		トラップの設置	黄色・青色粘着トラップ、フェロモントラップ等によりほ場での害虫の発生動態を確認する。	1		
防除	耕種的防除	発病株・残さの処理 (必)	炭疽病、萎黄病、乾腐病の発病株は見つけ次第、早期に抜き取ってほ場外に出し、適切に処分する。残さも同様に処分する。	1		
		葉かき	ハダニ類や灰色かび病の発生防止のため、枯死葉や老葉を取り除き、欠いた葉はほ場外で処分する。	1		
		葉かき・ランナー切り離し	炭疽病予防のため、作業は晴天時に行い、傷口を乾燥させる。	1		
	生物的防除	害虫	ハダニ類：ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ等の天敵農薬を使用する。	2		
			アブラムシ類：麦等のバンカープラントを設置し、コレマニアブラバチ等の天敵農薬を使用する。	1		
			アザミウマ類：クメリスカブリダニ、スワルスキーカブリダニ、リモニカスカブリダニ等の天敵農薬を使用する。	1		
		病害	うどんこ病、灰色かび病、炭疽病；生物農薬（拮抗菌等）を利用する。	1		
	物理的防除	防虫ネットの設置 (必)	施設開口部は、防虫ネットで被覆し、害虫の飛来や産卵を防ぐ。注1	2		
		反射マルチ材の設置	施設の外周部に光反射シートを設置し、害虫の侵入を防ぐ。	1		
		土壌病害・センチュウ対策	太陽熱消毒、熱水土壤消毒、散水蒸気消毒などを行う。	1		
		黄色防蟻灯の設置	施設内に黄色防蟻灯を設置し、ハスモンヨトウ等の侵入を防止する。	1		
		雨よけ育苗	炭疽病予防のため、育苗は雨よけ施設内で行い、雨滴や灌水による伝染を防ぐ。	1		
		紫外線 (UV-B) 照射	施設内に紫外線 (UV-B) 照射装置を設置し、うどんこ病発病前から夜間 (22~1時) に照射し、発病を予防する。注2 畝やベットに光反射シートを設置して葉裏に紫外光を反射させ、ハダニ類を抑制する。注3	1		
		苗の蒸熱処理	定植前の苗に蒸熱処理を実施し、ハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病を防除する。注4	1		
	化学的防除	農薬の使用全般 (共通) (必)	十分な薬効が得られる範囲で最適な散布方法を検討するとともに、残液が出ないよう、調合する薬剤量に注意する。	1		
散布方法		農薬散布を実施する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用する。防除は早朝か夕方無風～弱風時を選んで行う。	1			
ローテーション防除		農薬の使用にあたっては、農薬工業会が提供している作用機作による農薬の分類 (IRAC、FRAC) を確認し、特定の成分のみを繰り返し使用しない。さらに、当該地域で薬剤抵抗性が確認されている農薬は使用しない。	1			
薬剤の選択		天敵に影響の少ない薬剤や抵抗性が発達しにくい薬剤を選択する。	1			
炭酸ガスくん蒸		いちご苗への炭酸ガスくん蒸により、ナミハダニを防ぐ。注5	1			
その他	作業日誌 (必)	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1			
	研修会等への参加	県や農業協同組合が開催するIPM研修会や防除研修会等に参加する。また、研修会等の内容は、家族や作業者等へ周知し、情報共有する。	1			
				合計点数		
				評価結果		

* (必) と記述している管理項目については、必ず管理項目として設定しチェックする。

注1 アブラムシ類には1.0mm目合い、ハスモンヨトウには5.0mm目合いの防虫網が有効である。

注2 紫外線 (UV-B) 照射装置はイチゴ株に近いと葉焼け等の障害を生じる。装置の種類によって設置距離が異なるので注意する。

なお、厳寒期は葉に葉焼け症状が出やすいので、照射時間を2時間とする。

注3 光反射シート資材としてはデュボン製タイプック400VPが適する。土耕栽培では畝の両側面に幅50cm程度の光反射シートを設置する。

高設栽培ではベット両側に幅50cm程度の光反射シートを垂らす。

注4 蒸熱処理条件は50℃10分が有効である。

注5 炭酸ガスくん蒸には専用の装置および農業登録された炭酸ガスを使用する。高濃度炭酸ガスは人体にも有害なので取扱には注意する。